

大学・高専機能強化支援事業における
令和7年度現地調査

事業概要等説明資料

松山大学 学長
池上 真人



目次

- 1) 事業概要
- 2) 事業計画の現在の進捗状況
 - ① 学生確保の状況
 - ② 教員確保の状況
 - ③ 外部機関との連携状況
 - ④ 施設・設備の整備状況等
- 3) 事前質問に対する回答
- 4) 質疑応答

事業概要



育成する人材像

情報・デジタルの専門的知識・技術だけでなく、それを人と社会のために活用する際に必要な、論理的思考力、課題発見・解決力、共感力、コミュニケーション能力といった他者と協働できる力等の汎用的技能及び現代社会に必要な教養を身に付け、情報システムやメディアデザインに関する技術から新しい価値を創造し、デジタル技術の導入や運用を推進していく人材

専門教育 (ITスキル標準Lv.3~4相当)

情報システム分野

情報・デジタル技術を活かすために不可欠な情報システムやアプリケーションソフトなど、基盤となる新たな仕組みを開発し、社会の課題解決を担う人材となるため、プログラミングをはじめ、データベース、ネットワーク、情報セキュリティなど、システムやアプリの開発に必要な知識・技術を幅広く学ぶ

メディアデザイン分野

様々なメディア技術の中から最適な方法を選択し、それを社会の課題解決に活用できる人材となるため、デジタルメディアの基礎から学びをスタートさせ、映像制作 (VR、AR)、SNS活用、Webデザイン、CGアニメーションなど、実践的な知識・技術を幅広く学ぶ

専門基礎教育 (ITスキル標準Lv.2 相当)

「基本情報技術者試験」を全員受験

一般教育 (ITスキル標準Lv.1 相当)

専門科目

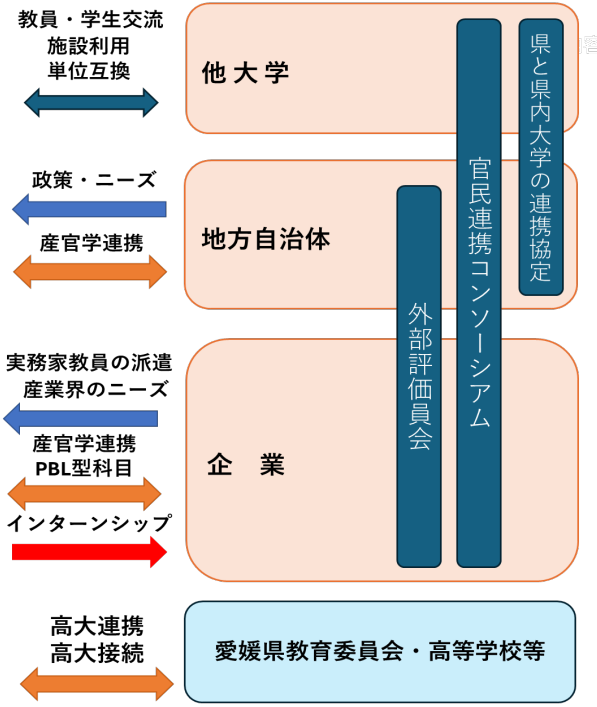
基礎科目、
専門核科目、
専門関連科目、
PBL型科目、
演習、実習

他学部連携科目

経営学部

人文学部

身につけたスキルを社会の中で活かす方法も併せて学ぶ



基本情報

改組予定年度：令和7年度
改組内容：学部の新設
設置等組織名：情報学部情報学科
入学定員：【R7新設】120名
所在地：愛媛県松山市

設置準備

愛媛県の掲げる「あたらしい愛媛の未来を切り拓くDX実行プラン」の取組みと連携。
高校のニーズ調査に基づいた定員設定。愛媛県立高校再編による情報系コース等の増設や各校の情報教育の強化にも対応
愛媛県教育委員会と連携して高大連携・高大接続を推進

学びの特徴

地域のニーズを取り込んで、地域・企業が持つ具体的な課題を題材に、地域や企業と協働したPBL型教育を行うことで、課題の解決に取り組みながら、学生たちに学んだ知識や技術を社会の中で活かす方法を実践的な教育を実現
様々な分野の実務家教員の配置により、社会に直結した学びを推進

キャリア教育、キャリア支援

「愛媛県官民連携IT人材育成コンソーシアム」による自治体や企業と協力関係に基づき、インターンシップや就職支援等を実施

教育の質保証

基本情報技術者試験の合格を原則必須とし、ITスキル標準Lv.3~4の資格取得を目指すことで、客観的に質を保証。また愛媛県や企業と協力して、教育の質に関するPDCAを評価するための外部評価委員会を設置し、教育体制・教育研究環境の継続的な向上を実現

他大学等との連携

愛媛県と県内大学による連携協定に基づき、デジタル人材の育成・確保、教員・学生の人的交流、施設・設備の相互利用、調査、研究の4つの事項で連携する

外部資金

科研費等、受託研究、施設設備寄付金、共同研究事業の獲得を奨励

多様な入学者の受け入れ

女性に配慮した施設整備や女性教員の積極的な採用を計画
ジェンダーバイアスをなくしていくための取組を推進

事業計画の現在の進捗状況

① 学生確保の状況



事業計画の現在の進捗状況

① 学生確保の状況

2025年度入試の概要

入試制度		募集人員	審査の方法
総合型選抜	成績優秀者	20	調査書等、小論文及び面接
	資格取得者	20	
	探究活動	若干名	調査書等、プレゼンテーション
指定校推薦型選抜		20	調査書等、小論文及び面接
一般選抜	I 期	20	調査書、個別学力検査
	II 期	20	
共通テスト利用選抜	前期	15	調査書、大学入学共通テスト
	後期	5	
合計		120	



事業計画の現在の進捗状況

① 学生確保の状況

2025年度入試の結果

入試制度		募集人員	志願者数	合格者数	入学者数	
総合型選抜	成績優秀者	20	34	29	186	
	資格取得者	20	26	22		
	探究活動	若干名	3	2		
指定校推薦型選抜		20	27	27		
一般選抜	I 期	20	107	81		
	II 期	20	224	118		
共通テスト利用選抜	前期	15	259	172		
	後期	5	20	5		
合 計		120	700	456		



事業計画の現在の進捗状況

① 学生確保の状況

学生確保に関する課題：

定員120名のところ186名の入学者があり、初年度の収容定員充足率が155%と大幅に超過した。

超過の主な原因としては、入学者選抜（特に一般選抜）において想定を大幅に上回る歩留まり率が影響したものと考えている。特に顕著であったのが、一般選抜（Ⅰ期日程）の歩留まり率で、24.7%の歩留まり率の予測に対して、実際は63.0%の歩留まり率となった。また、一般選抜（Ⅱ期日程）においても16.9%の歩留まり率を予測していたが、実際は29.7%の歩留まり率で、定員を大幅に超える入学者があった。

今後の改善策として、開設初年度の入学試験における歩留まりに関するデータを基礎に、初年度における広報の効果を加味しつつ、各試験区分の志願状況及び隣接する国立大学等の出願状況等を勘案して、適切な歩留まり率を設定した上で合否判定に活用する。各種入試において、出願状況に応じて初年度実績の客観的なデータに基づく合否判定を取り入れることで適切な定員管理を図るとともに、本学部のアドミッション・ポリシーに基づく入学者の確保を目指す。

事業計画の現在の進捗状況

② 教員確保の状況



事業計画の現在の進捗状況

② 教員確保の状況

教員の配置状況 (設置申請通り16名の教員が着任済み)

	30代	40代	50代	60代	70代	合計	実務家 教員数
教授			5	4	1	11	5
准教授		1	2			3	2
講師	2					2	
合計	3	1	7	4	1	16	
実務家教員数	1	2	2	2			7

※ 実務家教員 = 実務の経験を有する教員



② 教員確保の状況

実務経験のある教員についての採用基準

松山大学情報学部における松山大学教員選考基準に関する内規
(2024 (令和6) 年 2 月 15 日 制定)

第 2 条 教授，准教授又は講師となることのできる者の選考においては，以下に定められた項目を評価する。

- (1) 研究業績
- (2) 教育業績

2 前項にかかわらず，実務の経験を有する者については，前項に定められた項目に加えて，以下に定められた項目を評価する。ただし，本内規における実務とは情報学部のカリキュラムと直接関連のある分野に限る。

- (1) 当該専攻分野に関連する職務上の資格及び業績
- (2) 当該専攻分野に関連する職務経験の期間



事業計画の現在の進捗状況

② 教員確保の状況

2025年度 FD の実施状況

テーマ	対象	形式	開催日
経済安全保障について	情報学部	対面	9/25
2025年度前期学生による授業評価結果について	情報学部	対面	9/25
内部質保証システムにより保証されるべき「教育の質」とは	全体	オンライン	9/23-9/30
PDCAサイクル修得	全体	対面＋ オンライン	12/9
ICT活用授業の技術共有	全体	対面	開催予定
2025年度の学生の学修成果・学修状況	情報学部	対面	開催予定



事業計画の現在の進捗状況

② 教員確保の状況

情報学部 FD (2025年9月25日開催：参加者 教員15名、職員2名)

1) 経済安全保障について

(1) 海外への技術流出のリスク

愛媛県警察本部警備部外事課外事課長

(2) サイバーセキュリティ

愛媛県警察本部警備部外事課第四係長

(3) 知的財産と情報管理について

独立行政法人工業所有権情報・研修館支援担当者

2) 2025年度前期学生による授業評価結果について

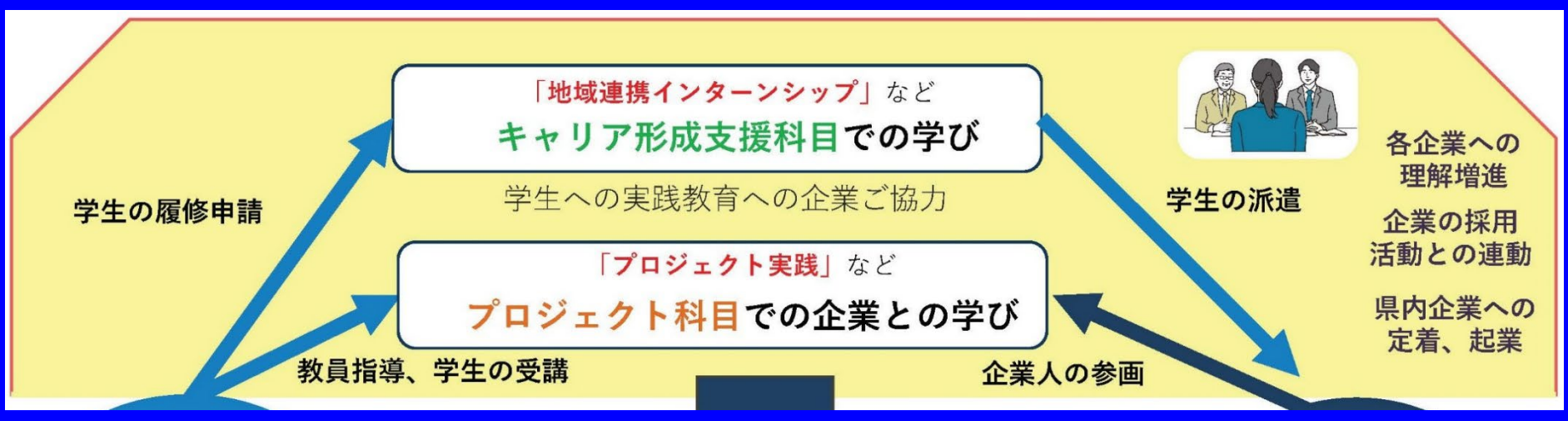
(1) アンケートの分析結果について

(2) 評価の高い授業を持っている教員への顕彰について

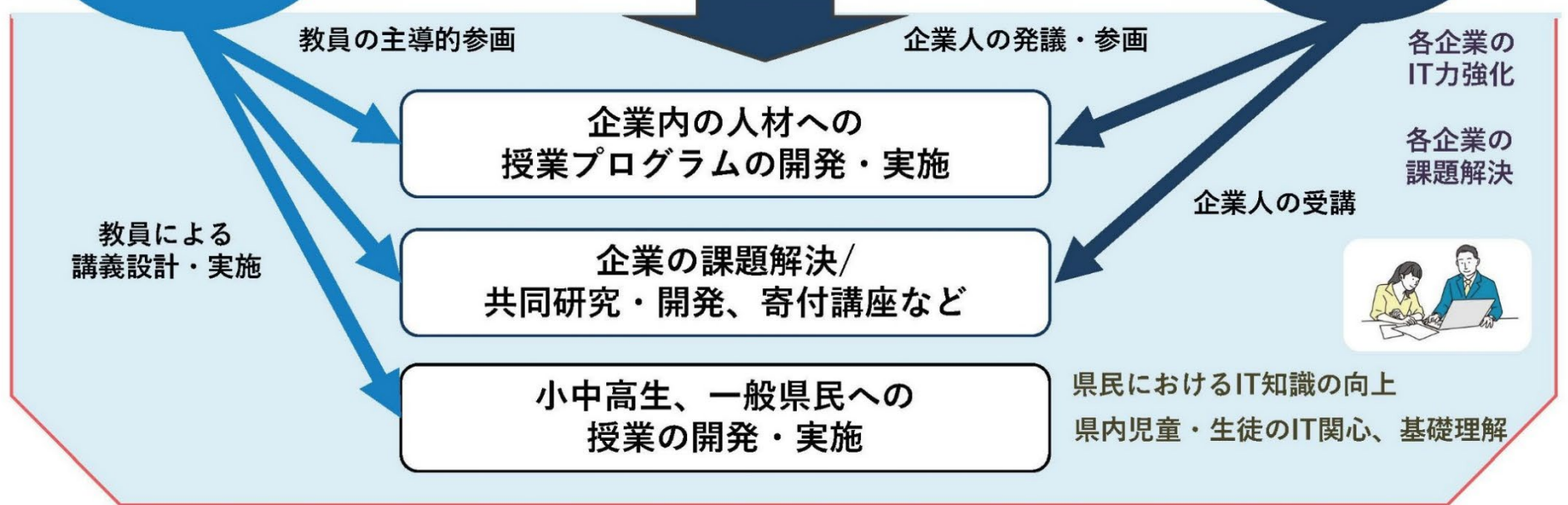
(3) 授業評価アンケートのあり方について

事業計画の現在の進捗状況

③ 外部機関との連携状況



松山大学 情報学部 (仮称) **松山大学 愛媛県 企業IT人材力強化 ネットワーク (仮称) 活動の実施** **企業・団体**





事業計画の現在の進捗状況

③ 外部機関との連携状況《正課教育側》

キャリア探索に59企業、キャリア教育実践に72企業、地域連携インターンシップに62企業、プロジェクト科目に45企業、合計80企業が参加を表明（2025年11月12日現在）

キャリア形成支援科目

1年次「キャリア探索」

オムニバス型（2025年度 前期）

1学年の全員に対して、実際の業務や仕事の流れなどについて企業等の担当者が説明

2年次「キャリア教育実践」

企業訪問型（2026年度 前期～夏期）

各企業等で、短期間（1～2日）、学生を受け入れていただき、実際の業務を見学や体験。

3年次「地域連携インターンシップ」

インターンシップ型（2027年度 夏期）

各企業等で、2週間（実働10日間）、社内での実務経験、会議参加、課題対応検討など、個人やメンバーが業務を経験

社会実践科目

プロジェクト科目

1年次「プロジェクトデザイン」

講義型（2025年度 後期）

プロジェクトの進め方を学び、企業等からのテーマを紹介（情報学部教員が実施）

2年次「プロジェクト入門」

プロジェクト参加型（2026年度 通年）

各プロジェクトに合わせて、課題設定時、中間報告会、最終報告会などを企業等と実施

3年次「プロジェクト実践」

プロジェクトマネジメント型（2027年度 通年）

各プロジェクトに合わせて、課題設定時、中間報告会、最終報告会などを企業等と実施



③ 外部機関との連携状況《正課教育側》

- 1) 2025年度開講「キャリア探索」
14の企業・団体からの講師がDXの現状と課題について講義を実施
- 2) 2026年度開講「プロジェクト実践」
授業の本格的な実施に先駆けて、正課外で情報学部1年次生によるプロジェクトを立ち上げている。



事業計画の現在の進捗状況

③ 外部機関との連携状況《正課教育側》

1) 2025年度開講した「キャリア探索」で、14の企業・団体からの講師がDXの現状と課題について講義

業種：システム開発、ソフトウェア開発、通信ネットワーク、映像制作、Web制作、マスメディア、広告、自治体、医療、造船、小売

- ・ 株式会社アービズ
- ・ 株式会社ひめぎんソフト
- ・ 株式会社愛媛CATV
- ・ 株式会社コモテック
- ・ 星企画株式会社
- ・ 社会医療法人石川記念会HITO病院
- ・ 株式会社フジ
- ・ サイボウズ株式会社
- ・ 株式会社NTTデータ四国
- ・ あいテレビ
- ・ 株式会社愛媛新聞社
- ・ 松山市役所
- ・ 今治造船株式会社
- ・ 愛媛県庁

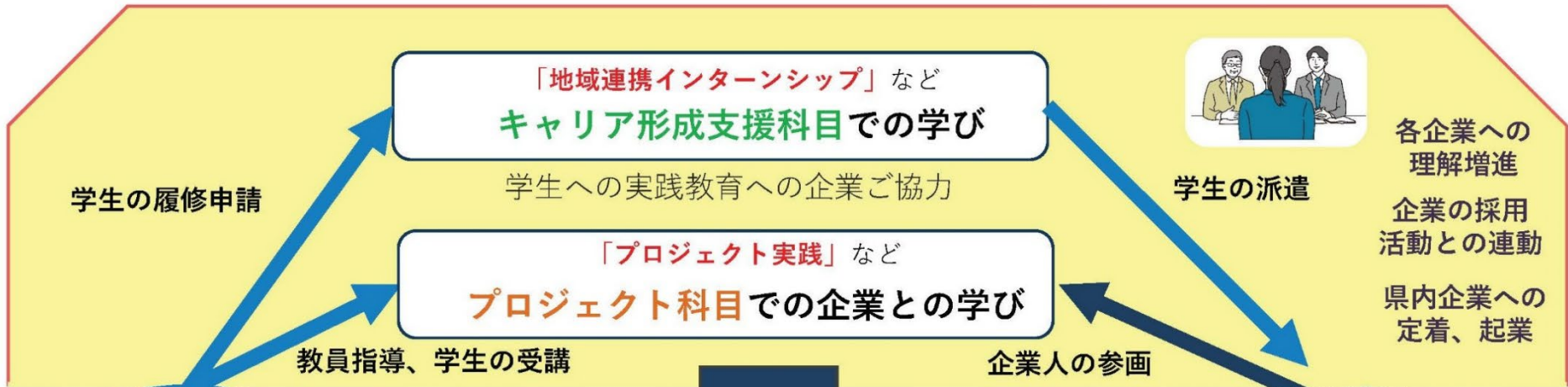


事業計画の現在の進捗状況

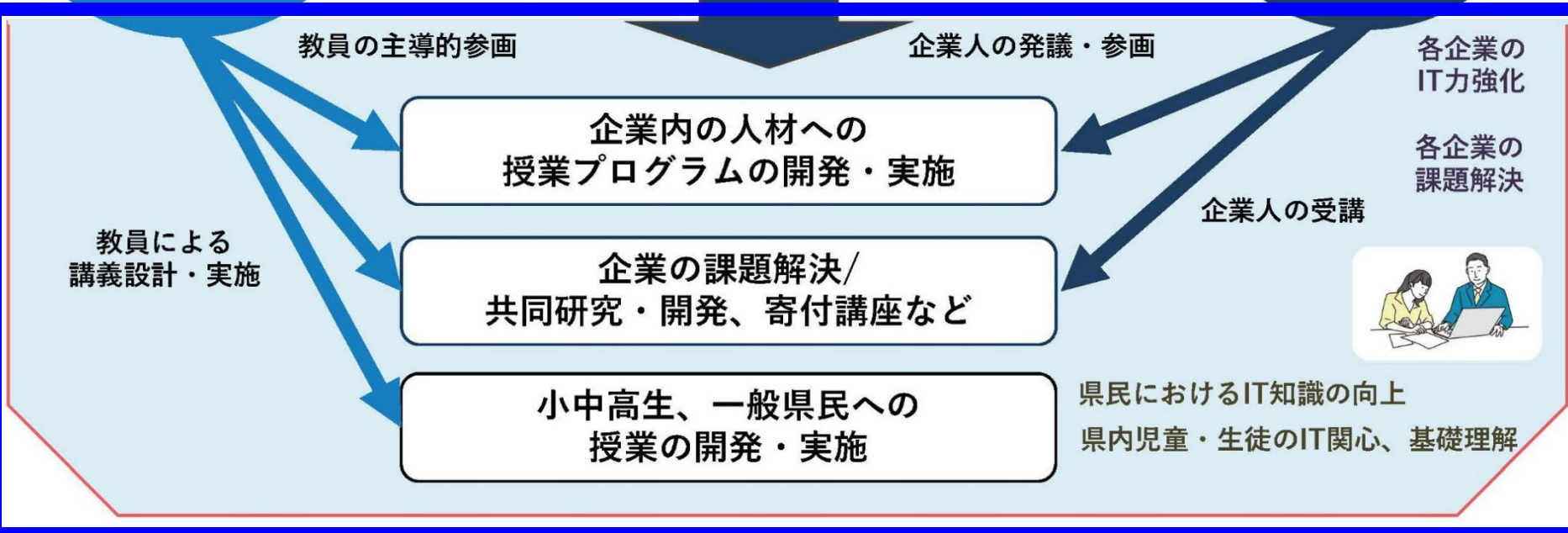
③ 外部機関との連携状況 《正課教育側》

2) 2026年度開講の「プロジェクト実践」に先駆けて、正課外で情報学部1年次生によるプロジェクトを立ち上げ

- ・ 愛媛県 PR 事業「まじめえひめ」プロジェクト
連携先： 愛媛県広報広聴課
- ・ 人口減少の調査・研究プロジェクト
連携先： 松山市企画戦略課
- ・ 地域課題解決型eスポーツ「e-challenge」プロジェクト
連携先： プロント松山大街道店ほか



松山大学 情報学部 (仮称) **松山大学 愛媛県 企業IT人材力強化 ネットワーク (仮称) 活動の実施** **企業・団体**





事業計画の現在の進捗状況

③ 外部機関との連携状況 《地域連携側》

1) 外部機関との連携協定

情報学部開設前に2件の連携協定を結び、開設後に新たに2件の連携協定を締結

2) 企業・一般向け講座を実施・準備中

社会人向け講座（コミュニティ・カレッジ）を実施、また社会連携室を組織改編して、リスキリングやリカレントの講座を開設することを準備中

3) 小中学生を対象とした授業を実施

地元の高校と共同して、中学生、小学生を対象とした体験講座を開催



事業計画の現在の進捗状況

③ 外部機関との連携状況 《地域連携側》

1) 外部機関との連携協定

締結日	協定名	協定先
2022/12/19	愛媛県デジタル人材の育成・確保に向けた連携・協力に関する覚書	愛媛県、愛媛大学 松山東雲女子大学、 人間環境大学
2023/10/13	愛媛県と松山大学のデジタル人材育成のための学部設置・運営に関する連携協定	愛媛県
2025/8/4	情報通信分野における総務省四国総合通信局と学校法人松山大学の包括連携協定	総務省四国総合通信局
2025/10/20	愛媛県警察本部と学校法人松山大学のサイバーセキュリティに関する協定	愛媛県警察本部



事業計画の現在の進捗状況

③ 外部機関との連携状況《地域連携側》

2) 社会人向け講座を実施

テーマ： デジタル変革の最前線～人を幸せに、社会を豊かにするデジタル技術～

回数： 全5回(講師:情報学部教員5名)

開催日： 2025年10月～11月

参加者： 29名(申込者数)

リカレント・リスキリング講座を準備中

2026年度開講を目指し、社会連携室運営委員会で検討中



事業計画の現在の進捗状況

③ 外部機関との連携状況《地域連携側》

3) 小中学生を対象とした授業を実施

小学生向け、中学生向けの講座のイベントなどを開催し、高校の分離コース選択の前から情報学の分野に興味を持てる機会を提供している。

事例紹介：

【中学生向け】理数情報科体験会（松山大学情報学部連携講座）

【小学生向け】伊予高生・松大生と楽しむ！ドローンを飛ばそう！

「事前質問への回答」と共に説明

事業計画の現在の進捗状況

④ 施設・設備の整備状況等



事業計画の現在の進捗状況

別紙参照

④ 施設・設備の整備状況等

松山大学10号館 3月5日落成予定 2026年度4月より運用開始

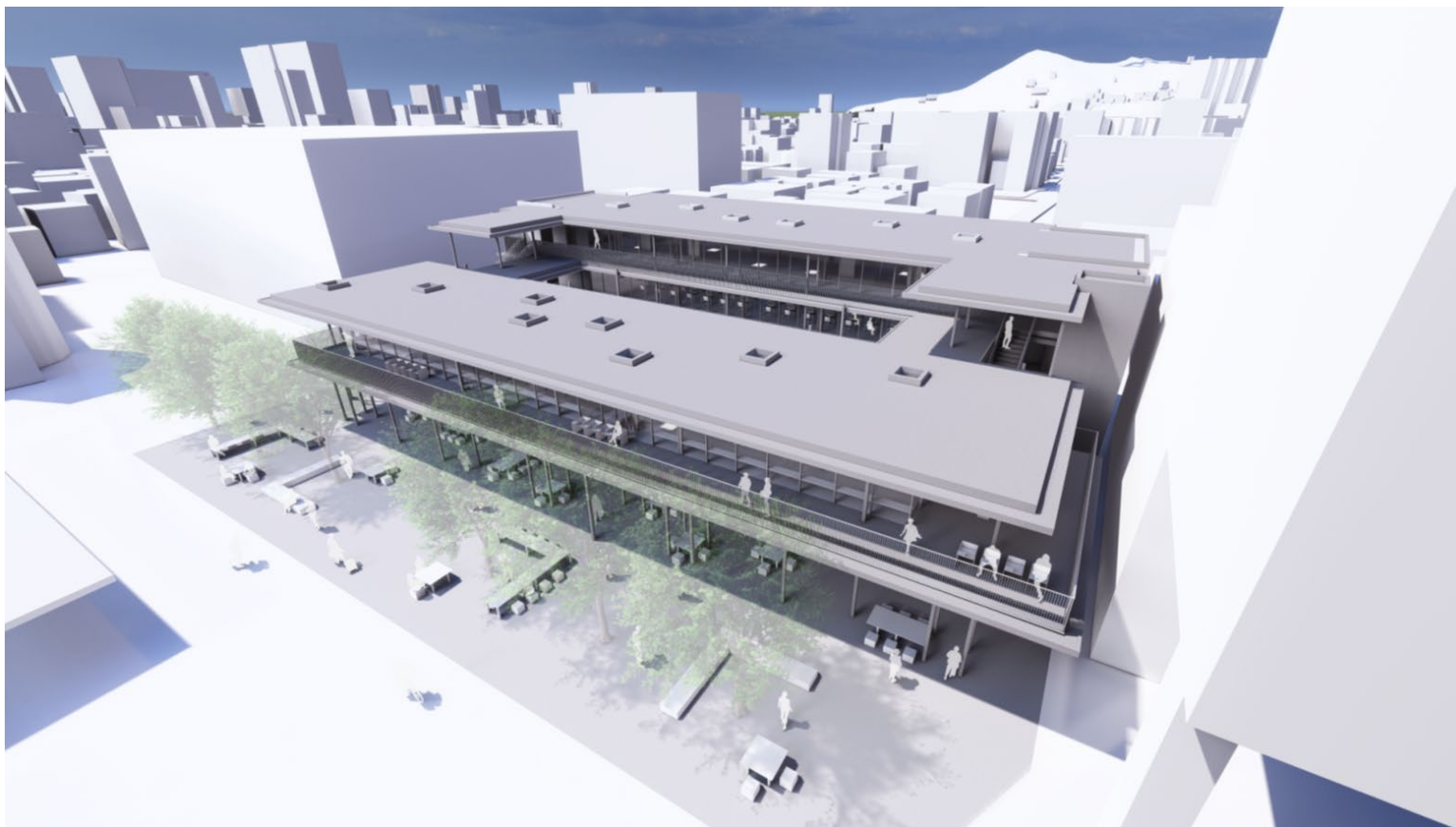




事業計画の現在の進捗状況

④ 施設・設備の整備状況等

松山大学10号館 3月5日落成予定 2026年度4月より運用開始





事業計画の現在の進捗状況

④ 施設・設備の整備状況等

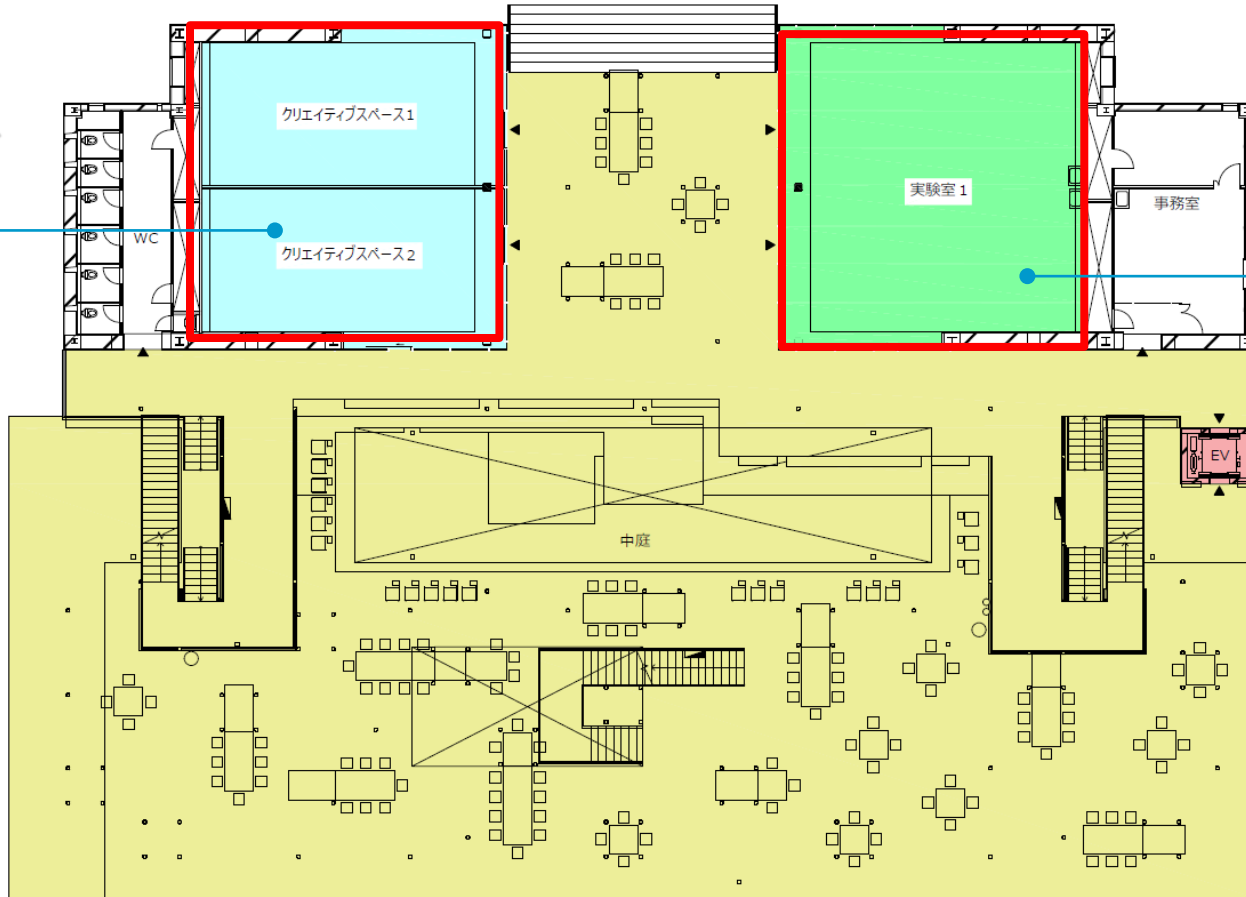
- ガラス張りの開放的な交流スペース、共同学習エリア(ラーニングコモンズ)を整備
- 女性学生の利用を想定して、トイレや(夜間)照明などの設計に配慮し、明るく視認性の高いフロアデザインなどを採用
- 学内外の人々が交わる「オープンラボ」的空間(リサーチコモンズ)を配置し、企画展示・産学官交流・成果発表にも活用可能な構造
- 情報研究環境として、高性能計算機、4面LEDビジョン、撮影機器、AI計算基盤、グループワーク用デジタルボード等を整備



事業計画の現在の進捗状況

1階平面図

クリエイティブ
スペース



実験室

クリエイティブスペース 1

《特徴》 撮影ができるスタジオやeスポーツの空間

eスポーツ用機材



eスポーツ用PC



ゲーミングモニター

スタジオ用機材



カラーマネジメント
モニター



ビデオインター
フェース



ビデオコントロール
パネル

クリエイティブスペース1

《特徴》 撮影ができるスタジオやeスポーツの空間

スタジオ用機材



デジタル一眼カメラ



プロフェッショナルカムコーダー



シネマカメラ

ライト



レフ板



ジンバル



マイク



空撮用ドローン

クリエイティブスペース2

■VR-Commons (ブイアールコモンズ)



VR - Commons(Virtual Reality Commons)は、バーチャルリアリティとラーニングコモンズを融合させた次世代体感型知的創造学び空間による、よりリアルな学習を提供します。時を超え、距離を越え、世界と繋がり、知的生産性の高い学びの場を提供します。

イノベーションの創出

先進的なデジタル技術を活用しあらゆるサービスを可視化することが可能です。

快適なキャンパスライフの創出

学生や職員のライフスタイルにあわせた環境を提供することが可能です。

DXで未来のキャンパスの創出

コスト、手間がかかるビル管理をスマートに統合・構築することが可能です。



遠隔授業や体験学習ができる

VRの大きな特徴は、「**現実に勝るとも、劣らないリアルな体験ができること**」です。たとえば、災害訓練で用いられるVR教材では1人の被災者として体験を共有できるため、現実ではなかなか経験できない学びを得ることができます。もちろん座学・実技といった分野においても「進捗に合わせてCG教材を使う」「360°あらゆる視点から学習する」といった**能動的な学習が可能**となります。



クリエイティブスペース2

《特徴》 壁3面と床面にLEDパネルを設置

イメージ例（写真は壁2面と床面にLEDパネルを設置）



クリエイティブスペース2

《特徴》 壁3面と床面にLEDパネルを設置

イメージ例（写真は LED パネルではなくプロジェクター投影）



クリエイティブスペース2

《特徴》 壁3面と床面にLEDパネルを設置

映像編集用機材



編集用
Windows PC



360度カメラ



編集用
Mac PC



360度カメラ

実験室

ネットワーク機器演習

ルータ



スイッチ



PC組み立て演習



CPU

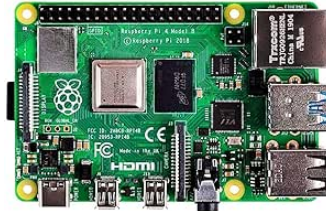


メモリ



マザーボード

IoT (Internet of Things) 演習



ラズベリーパイ

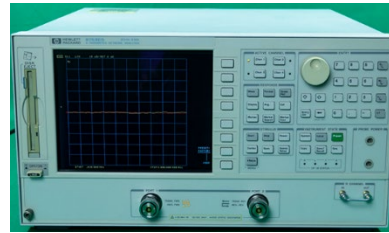


カメラ



ドローン

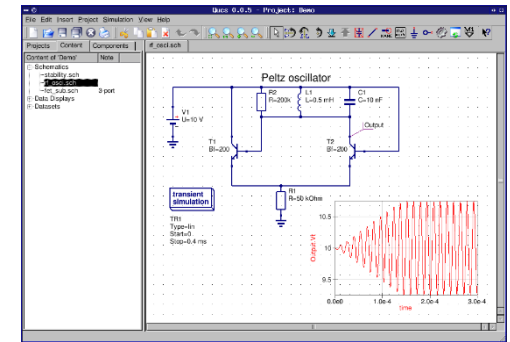
デジタル回路・半導体デバイス演習



ベクトルネットワークアナライザ



顕微鏡



回路シミュレータ (ソフト)



はんだこて

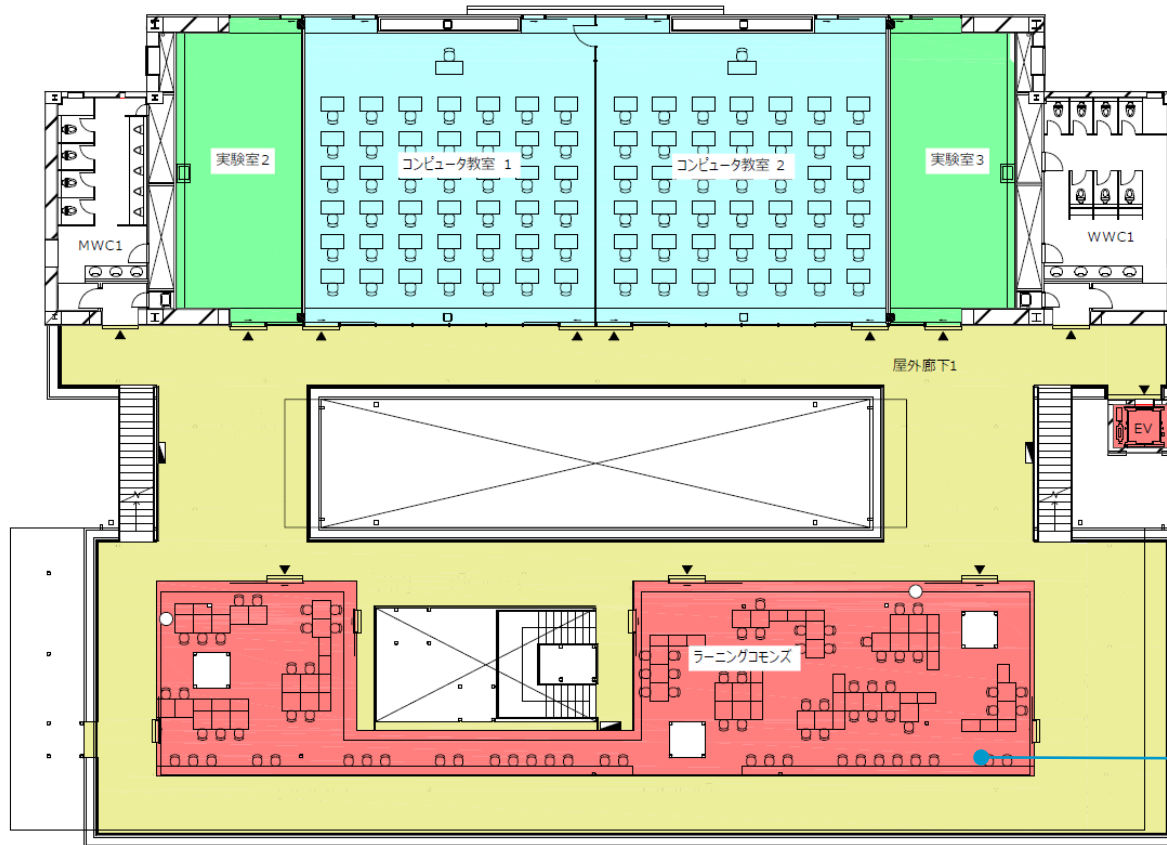


基板



事業計画の現在の進捗状況

2階平面図



ラーニング
commons

新棟内コンピュータ教室（イメージ）



現在のコンピュータ教室



コンピュータ教室（2部屋）

《特徴》 40名規模の中教室に高性能パソコンを常設した教室（2部屋）

様々なソフト（Maya、Adobe等）を搭載した高機能、高性能処理可能なWindowsやMacのパソコンを配置予定



Mac
Mac Studio M3 Ultra
27インチモニター

画像、映像、3DCGソフト
Adobe Creative Cloud
Maya
DaVinci Resolve
Blender

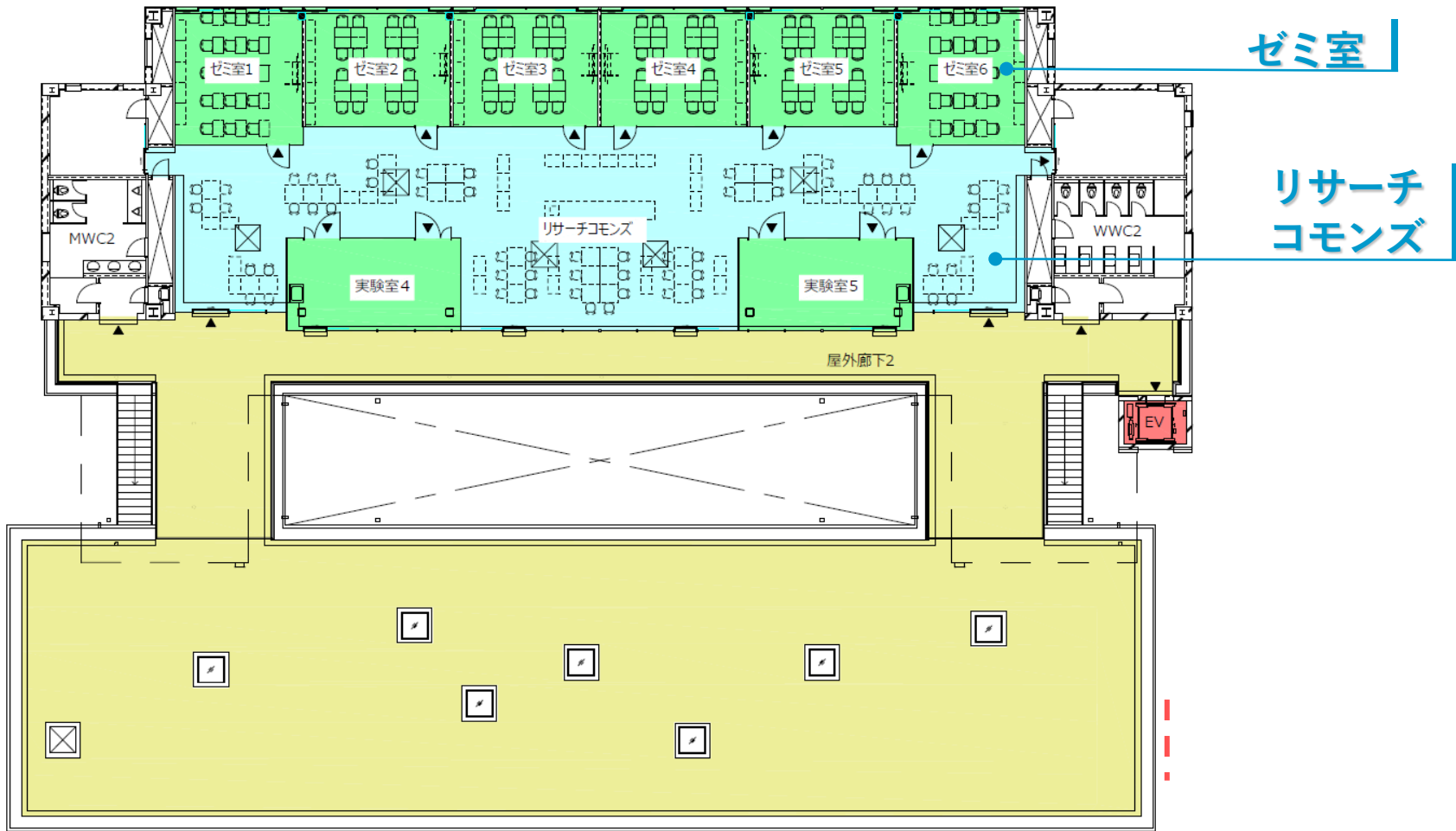


Windows
raytrek 4CX47iS K
27インチモニター



事業計画の現在の進捗状況

3階平面図

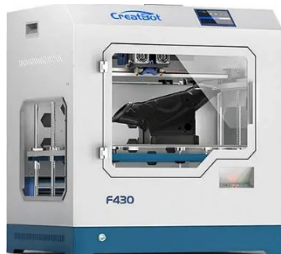


ゼミ室と実験室、リサーチcommons

《特徴》 専門セミナーや卒業研究を効果的に行う空間

オープンな空間でそれぞれの専門分野・コースを越えて学生が学びあえる環境を配置
連携企業とのオンライン会議や学生間でのブレインストーミング等幅広い用途で使用可能

3Dプリンタ



ロボットアーム



レゴ エデュケーション SPIKE



VRヘッドセット



ロボット



Raspberry Pi 4 Kit



事前質問に対する回答



事前質問に対する回答

事前質問 1

実践力の育成を目標に教育課程では「社会実践科目群」が編成され、「プロジェクト実践」、「マネジメント実践」や「キャリア形成支援」等、一連の科目によって企業、自治体等との協力のもとで社会課題に取り組む力を身につけることを特色としているとのことだが、現在までの進捗状況と今後の展望を説明してください。

《今後の展望》

情報学部内に「企業実習実施委員会」を設置しており、同委員会を中心に、各企業・団体を社会実践科目群の運用を計画・実施・点検。改善していく。2026年度開講予定の「キャリア教育実践」や「プロジェクト実践」については各企業・団体にアンケート調査を実施し、参加企業・団体とともに内容を調整している段階である。



事前質問に対する回答

事前質問 2

県下の高校と広く連携を図るとともに、高校での情報学体験活動のロールモデル・先進事例を参考にしつつ、情報分野の体験に特化したオープンキャンパス企画やイベントを展開しており、また選抜における科目・内容の見直しについても令和9年度より実施予定とのことだが、現在までの取組状況と今後の展望を説明してください。

《現在までの取組状況》

- 1) 県下の高校と連携し、授業提供・出前講義・実験系ワークショップを継続的に実施
- 2) 情報分野に特化した体験型オープンキャンパスを企画・実施
- 3) 令和9年度より、試験科目に「情報」を追加

《今後の展望》

すでに実施している高大連携活動を続けていくと共に、県下の高等学校、特に情報系の学科やコースを持っている高等学校との連携を強化していくことを予定している。また、小学生や中学生も対象に、情報分野を体験できるイベント等の開催も計画している。



事前質問に対する回答

1) 県下の高校と連携し、授業提供・出前講義・実験系ワークショップを継続的に実施

① 県内高校の探究活動等への協力
(2025年度12校)

② マツダイゲームジャム
(高大連携による地域課題解決シリアスゲーム開発)

③ 情報処理学会が開催する中高生情報学研究コンテストのサポート



事前質問に対する回答

2) 情報分野に特化した体験型オープンキャンパスを企画・実施

情報学部「ミライ体験ツアー」の実施

(3DプリンタやVRなど情報分野の体験に特化したオープンキャンパス)

- 2025年度9回実施(12月6日時点、全体OC時の実施含む)
- 参加者の延べ人数748名(12月6日時点) ※(参考)2024年度 724名
- 1期生の情報学部PRアンバサダーが協力





事前質問に対する回答

3) 令和9年度より、試験科目に「情報」を追加

2025年3月28日に、2027(令和9)年度より一般選抜の試験科目の「情報」を追加することを公表し、2025年7月31日には、同科目のサンプル問題を公表している。

2027年度入学者選抜に係る変更点（予告）および新設試験科目『情報』のサンプル問題について

<https://nyushi.matsuyama-u.ac.jp/post-9827/>



事前質問に対する回答

事前質問 3

新設する学部棟は、オープンな空間を多く設ける等、女性に配慮した設計とのことだが、具体的な内容と進捗状況を説明してください。また、中高の女子生徒の志進学志向を高めるための取組や、ジェンダーバイアスをなくすための取組等、情報学を学ぶ女子学生数増に向けた取組を複数展開する計画とのことだが、現在までの進捗状況と今後の展望を説明してください。

《現在までの取組状況》

- ・ 女性学生の利用を想定して、トイレや（夜間）照明などの設計に配慮し、明るく視認性の高いフロアデザインなどを採用
- ・ 情報学部PRアンバサダーを組織し、オープンキャンパス等のイベントで女子生徒向けにロールモデルとして対話する「松大ライブ」などを展開している。
- ・ 高校生向けの連携以外にも、中学生向けの講座や小学生向けのイベントなどを開催し、高校の分離コース選択の前から情報学の分野に興味を持てる機会を提供している。

事例紹介：

【中学生向け】理数情報科体験会（松山大学情報学部連携講座）

【小学生向け】伊予高生・松大生と楽しむ！ドローンを飛ばそう！



事前質問に対する回答

【中学生向け】理数情報科体験会(松山大学情報学部連携講座)



「松山大学情報学部による特別講座」

(特別講師：松山大学情報学部 松浦 一雄 教授)

音と波動を数学と情報の力で解明。教授が考案した装置を体験し、音の干渉の不思議を体験

https://iyo-h.esnet.ed.jp/risuujouhou?frame_356_page=2#frame-356



事前質問に対する回答

【小学生向け】伊予高生・松大生と楽しむ！ドローンを飛ばそう！



伊予高校の探Q「ドローンの活用」講座、「Scratchを用いたゲーム制作」講座の生徒と連携し、松山大学の学生、松山大学檀教授と協働した小学生向けドローンを飛ばそうイベント

https://iyo-h.esnet.ed.jp/risuujouhou?frame_356_page=8#frame-356



事前質問に対する回答

《今後の展望》

- 既存の取組に加え、愛媛県男女共同参画センターやNPO法人など学外機関と連携し、オープンキャンパス等でジェンダーバイアス解消を目的とした保護者向けイベントを実施する。
- 女性の情報技術者を招いた講演会や座談会を開催し、社会の第一線で活躍する女性研究者・技術者の姿を紹介して、情報分野でのキャリア形成を具体的にイメージできる機会を提供する。
- 中高生が将来像を描きやすくなるよう、女子生徒向けの体験型ワークショップやキャリア講座の実施を検討する。
- 卒業生を輩出するまでは女子在学生インタビュー等を積極的に発信し、卒業生輩出後にはそのキャリア事例を広報展開して多様なロールモデルを継続的に提示する。
- これらの取組を通じて、女子学生が安心して情報学を学び、地域の未来を切り拓く力を育成できる環境整備を一層推進する。



事前質問に対する回答

事前質問 4

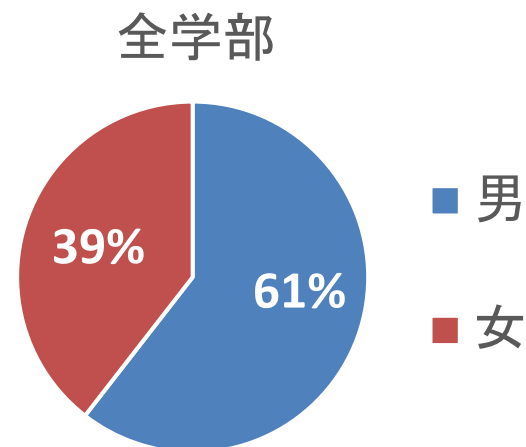
R7 年度入学者のうち女子学生は47 名で、全体186 名の25.3%に留まったことや、女性限定教員公募を実施したものの採用には至らなかったことなど、情報学を学ぶ女子学生数増に向けた取組には課題も挙げられているが、今後の展望を説明してください。

《現在の状況》

在籍者数

(2025年11月1日現在)

学部	男	女	女子比率
経済学部	1,249	435	25.8%
経営学部	950	645	40.4%
人文学部	382	553	59.1%
法学部	599	355	37.2%
薬学部	127	213	62.6%
情報学部	138	47	25.4%
全学部	3,445	2,248	39.5%





事前質問に対する回答

《現在の状況》

情報学部のオープンキャンパス申込者数（延べ人数）

	参加人数	男	女	女子比率
2024年度計	724	430	294	40.6%
2025年度計	748	431	317	42.4%
合計	1,472	861	611	41.5%

女子学生の確保については、出張講義、情報学部ミライ体験ツアー、オンライン相談会、オープンキャンパスなどの高大連携イベントの実施を通じて、情報分野の魅力を伝える活動を行っている。

《事例紹介》

済美高等学校情報コース向けオーダーメイドオープンキャンパス



事前質問に対する回答

別紙参照

《事例紹介》

済美高等学校情報コース向けオーダーメイドオープンキャンパス

済美高等学校
オーダーメイドオープンキャンパス

情報学部体験

2025.11.6 (THU)

--PROGRAM--

情報学部体験① 【定員30名】
Unityによる坊ちゃん団子ゲームプログラミング

情報学部体験② 【定員30名】
映像編集入門

情報学部体験③ 【定員30名】
流れと音が結びつくとき

開催時間 1回目:13:40~14:10
2回目:14:20~14:50

開催場所 8号館7階 870教室

開催時間 1回目:13:40~14:10
2回目:14:20~14:50

開催場所 8号館7階 872教室

開催時間 1回目:13:40~14:10
2回目:14:20~14:50

開催場所 8号館7階 873教室

レクチャーするのは、情報学部PRアンバサダーの現役学生！
世界で使われるゲームエンジン「Unity」の基本に触れる体験プログラムです。坊ちゃん団子のゲームを作り、プログラムの仕組みを解説。ゲームの細かい動きを自分で調整する、クリエイターの第一歩を体験できます。

映像編集アプリケーションであるAdobe Premiere Proの基本的な操作方法を説明したうえで、事前に準備された映像素材をもとに編集作業を行い、短編映像作品を完成させてみます。経験者は、サウンドの編集にも挑戦してみましょう。

流体の流れと音が織りなす共鳴現象を解き明かす模擬講義。実験、シミュレーションと機械学習を駆使して、目に見えない響きの仕組みに迫ります！

参加者81名
(1年生及び2年生:全員女子)

当日の様子





事前質問に対する回答

《今後の展望》

- 女子学生のロールモデルとなる女性教員の確保は未達であり、完成年度に向けて引き続き検討すべき課題である。
- 情報学部は女子比率が特段低いわけではないものの、一般選抜・共通テスト利用選抜で女子受験者が少ないという構造的課題があるため、中長期的な改善が求められており、そのため本学では入試科目改革の継続に加えて保護者向けイベントや小中学生向けイベントによる理系選択段階のジェンダーバイアス緩和に重点的に取り組み、さらに高大連携で得られた成功事例を他校へ横展開して女子生徒が情報分野を「普通の進路選択」として認識できる環境づくりを進めることで、中学生段階で理数情報科を志望する生徒や高校2年次に理系選択を行う生徒の増加につなげたいと考えている。
- 多くの女子学生で構成される情報学部PRアンバサダーを積極的に活用し、SNS・動画・出前講座等を通じて情報学部の魅力を効果的に発信する。
- これらの施策を総合的に展開することで、男女を問わず多様な生徒が情報学部を志望できる環境を整え、結果として女子学生比率の向上につなげる。

質 疑 応 答